

19. 品質試験

19-1 コンクリート関係

(1) スランプ・空気量測定状況



留 意 事 項

- スランプの目盛の正面となるように低いアングルで撮影する。
- 空気量のゲージが読めるようにアップも撮影する。
- 供試体の現場採取の写真も撮影する。

撮 影 方 法

- 計測器及び材料は水平な場所に設置し、数値が判読できるように撮影する。
- 空気量値が確認できるようなアングルとする。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験名
- 試験方法
- 試験日・配合・測定結果
- 供試体の製造工場名等を記入する。

(2) 圧縮強度試験状況



留 意 事 項

- 供試体の番号の表示がわかりやすい。
- 試験機の正面からピントを合わせて撮影する。
- 供試体の試験前・中・後も撮影する。
- ピーク強度のゲージ目盛もアップで撮影する。

撮 影 方 法

- 供試体・試験機はもちろんのこと、試験状況が確認できるアングルで撮影する。
- 試験中の供試体の状況、試験機が目盛が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験名
- 試験方法
- 試験日・配合・試験結果
- 供試体の製造工場名等を記入する。

19-1 コンクリート関係

(3) 曲げ強度試験状況



留 意 事 項

- 黒板の記入内容がよくわかる。
- 試験機の正面から撮影されている。
- 供試体の試験前・中・後も撮影する。
- ピーク時のゲージ目盛もアップで撮影する。

撮 影 方 法

- 供試体、試験機はもちろんのこと、試験状況が確認できるアングルで撮影する。
- 試験中の供試体の状況、試験機の見盛が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験名
- 試験方法
- 試験日・配合・測定結果
- 供試体の製造工場名等
- 供試体の材令・曲げ強度
- 供試体寸法を記入する。

(4) 塩化物含有量試験状況



留 意 事 項

- 試験紙の変色の程度が判別できるように正面から撮影する。
- 黒板に試験結果を記入し、試験目的を明確にする。

撮 影 方 法

- 試験紙はもちろんのこと、試験状況が確認できるアングルで撮影する。
- 変色する試験紙の色が判別できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験名
- 試験方法
- 試験日・配合・試験結果
- 供試体の製造工場名等を記入する。

19-2 土質関係

(1) 突固めによる締固め試験状況



留意事項

- 試験状況をわかりやすくするため、試験器の正面から撮影する。

撮影方法

- 供試体、試験機はもちろんのこと、試験状況が確認できるアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験名
- 試料採取位置
- 試験方法・試験結果
- ランマの規格・落下高・モールド規格
- 含水比(%)を記入する。

(2) 土粒子の密度試験状況



留意事項

- アングルを水平にして撮影する。
- 黒板に試験方法(JIS番号含む)、供試体の採取位置、試験結果などを記入し、後で試験等の状況が確認できるように撮影する。

撮影方法

- フラスコ内の試料の状態、計器の目盛が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験名
- 試料採取位置
- 試験日・配合・試験方法・試験結果を記入する。

19-2 土質関係

(3) 現場C B R試験状況



留意事項

- 試験目的に応じた試験状況がわかるように撮影する。
- ゲージの目盛のアップも撮影する。
- 試験機器類の正面から撮影する。

撮影方法

- 試験状況・試験位置・試験器具・測定結果が確認できるように撮影する。
- 試験に使用する機器類はもちろんのこと、試験状況が確認できるアングルで撮影する。
- 試験中の試験器具の目盛が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験位置
- 試験名
- 試験方法
- 試験結果を記入する。

(4) 平板載荷試験状況



留意事項

- 試験目的に応じた試験状況がわかるように撮影する。
- ゲージの目盛のアップも撮影する。
- 試験機器類の正面から撮影する。

撮影方法

- 試験に使用する機器類はもちろんのこと、試験状況が確認できるアングルで撮影する。
- 試験中の試験器具の目盛が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験位置
- 試験名
- 試験方法
- 載荷板径・上載荷重
- 試験結果を記入する。

19-2 土質関係

(5) 一軸圧縮試験状況



撮影方法

- 試験器具はもちろんのこと、試験状況が確認できるアングルで撮影する。
- 試験器具の目盛が確認できるように撮影する。

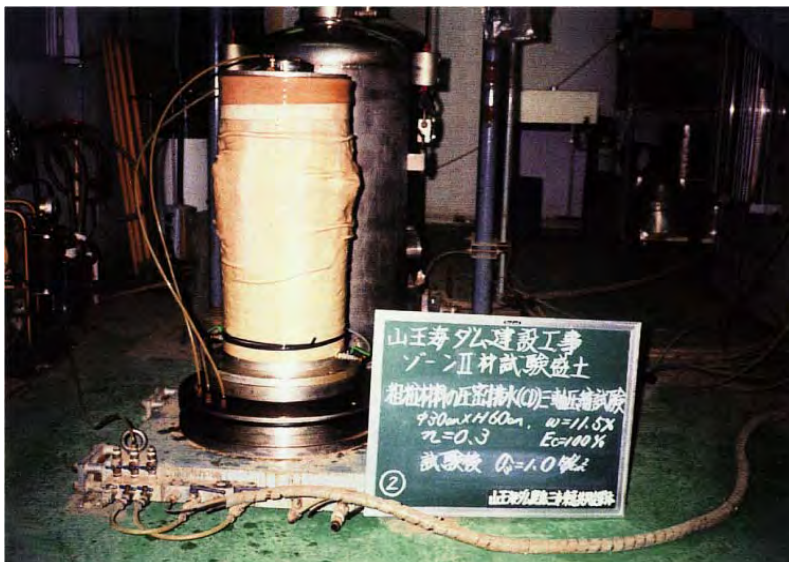
黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験名
- 試験方法
- 供試体採取位置
- 試験結果を記入する。

留意事項

- 余分な部分を入れないアングルで、試験器具、パソコン画面の正面から撮影する。
- ゲージの目盛のアップも撮影する。

(6) 三軸圧縮試験状況



撮影方法

- 試験状況を試験器具を含めて撮影する。
- 試験装置全体が入るようなアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験場所
- 試験名
- 試験方法
- 供試体採取位置
- 試験結果を記入する。

留意事項

- 黒板の記入内容がわかりやすい。
- 試験装置全体が入っていないので、試験状況がわかりにくい。
- 測定者を配置し、装置全体が入る方向からのアングルで撮影する。

19-2 土質関係

(7) 現場粒度測定状況（フルイ分け）



留意事項

- 後方の区分の量が確認できない。
- 区分毎の仕切りを設け、横に並べるなどの工夫を行う。
- 撮影目的以外の余分なものが写らないようにする。

撮影方法

- フルイ分け後の各区分の量が確認できるように撮影する。
- 区分が明確にわかるような工夫を行う。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験名
- 試験方法
- 対象材料
- 試験結果を記入する。

(8) 締固め密度の測定状況



留意事項

- 測定器具・掘削材料がきれいに配置され、測定状況がわかりやすい。

撮影方法

- 測定器具・掘削材料とともに、測定状況が確認できるアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験位置
- 試験名
- 試験方法
- 現状土重量、置換土重量の測定結果を記入する。

19-2 土質関係

(9) 現場透水試験状況 (定水位法)



留意事項

- 上からのアングルで試験孔内の注入水が確認できる。
- 黒板はカメラに向かって正面になるようにおく。

撮影方法

- 試験器具はもちろんのこと、試験状況が確認できるアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験位置
- 試験名
- 試験結果を記入する。

19-3 アスファルト関係

(1) マーシャル安定度試験状況



留意事項

- 真ん中の試験器具以外に余分なものが写っている。
- 試験器具の正面から撮影する。
- 試験状況がわかるように立会者が入る。
- △ゲージの目盛がわかるようにアップも撮影する。

撮影方法

- 供試体、試験機はもちろんのこと、試験状況が確認できるアングルで撮影する。
- 試験に使用する機器類はもちろんのこと、試験状況が確認できるアングルで撮影する。
- 試験中の試験器具の目盛が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験名
- 試験方法
- 供試体の製造工場名
- 試験結果を記入する。

(2) 舗装温度測定状況



留意事項

- 温度計の目盛が確認できる。
- フィニッシャーをアングル内に入れ、ズームを用いるなど工夫して正面から撮影する。

撮影方法

- 試験器具を含めて周囲の状況が入るように撮影する。
- 敷均し温度が確認できるように撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 測定位置
- 測定方法
- 測定器具
- 測定結果を記入する。

19-3 アスファルト関係

(3) アスファルト抽出試験状況



留意事項

- 試験装置が黒板に隠れて見えない。
- 黒板の位置をずらし試験全体が見えるようにする。
- 試験装置以外の余分なものが写っている。

撮影方法

- 試験装置、試験状況全体がわかるようなアングルで撮影する。
- 合材の種別、供試体の採取位置がわかるように、黒板に記入して撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験名
- 試験方法
- 供試体の製造工場名
- 試験結果を記入する。

(4) コア採取状況（密度試験用）



留意事項

- 黒板の記入内容がわかりやすい。
- ピンポールなどを用いて、コアの寸法がわかるようにする。
- コアカッターが写るように黒板の位置をずらす。

撮影方法

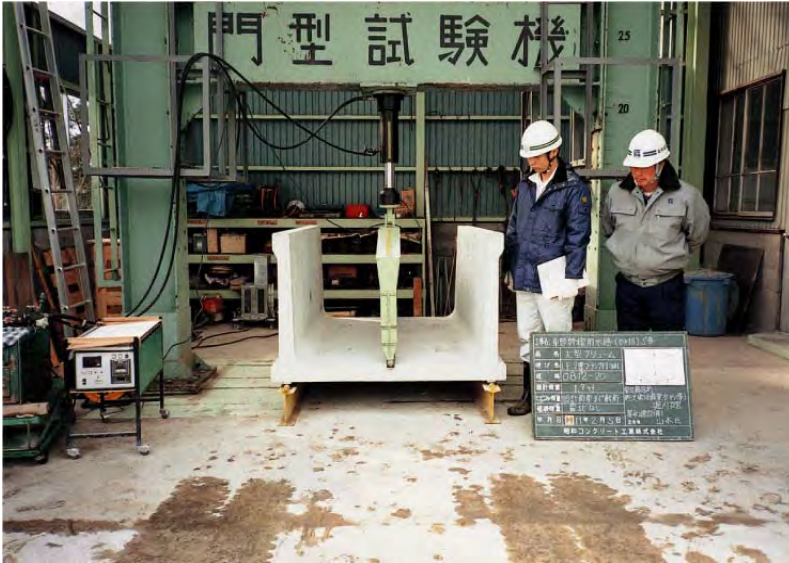
- コア採取状況が確認できるように撮影する。
- コア採取後のコア厚の測定状況と周囲の状況がわかるようなアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- コア採取位置
- 測定結果を記入する。

19-4 プレキャストコンクリート製品関係

(1) 外圧試験立会い状況



留意事項

- 立会者、試験装置全体が入って、試験状況がわかりやすい。
- 手前の余分なスペースが入らないように近接して撮影する。
- 黒板を手前におき記入内容が読めるようにする。

撮影方法

- 試験状況を試験装置を含めて撮影する。
- 試験装置の測定値の目盛をアップで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 試験名
- 試験方法
- 製品の名称・規格
- 設計値・測定値を記入する。

(2) 外観・形状検査状況



留意事項

- 製品を中心に形状のよくわかる方向（右側）から撮影するなどの工夫をする。
- 断面方向のみでなく、長さ方向にもリボンロッドを付ける。
- 目盛にあて木などをあてて寸法がわかるようにする。

撮影方法

- リボンロッドなどをあてて尺を用いて、外観・形状寸法がわかるようなアングルで撮影する。

黒板記入内容

- 工事名
- 工種及び種別
- 検査場所
- 作業内容
- 製品の名称・規格
- 測定結果を記入する。